

生きものの健康を管理し

命をつなぐことが私の使命です。

九州の星

Star of Kyushu

| 64 |

頑張るあなたを
応援するコーナーです



▲イルカの生態を紹介する「いるかの時間」で手話を交えながらナビゲートする大塚さん

大塚 美加

OTSUKA MIKA

いおワールド かがしま水族館
獣医師



◀『すいぞくくんの
おいしいさん』
福音館書店
大塚美加 文
齋藤慎 絵



▲イルカの健康管理(呼吸検査)



▲水族館の仲間と一緒に

生きものと人をつなぐ存在

かがしま水族館には、体重わずか2gのタツノオトシゴから1tを超えるジンベエザメまで、体のつくりもかかる病気も様々な海の生きものがくらしている。獣医師の大塚美加さんは、そんな生きものたちを相手に診察、治療をする毎日だ。

治療は時に危険も伴う。病気のマダラエイに水中で注射をした際、毒針が肋骨の間を通り横隔膜に穴が開き、手術をした。「治療で針を刺す獣医師は生きものにとって嫌な存在なのかもしれません。それでも私は彼らが好きで、元通り元気な姿をみせてくれると嬉しくなります」

獣医師は生きものの死とも向き合わなければならない。「治療のかいなく、

命を落とした生きものを前にすると、自分の無力さに打ちひしがれます。けれど、その死を決して無駄にしたいくないので、死んだ生きものたちを解剖して、その記録を残して今後に活かします」

病気を防ぐ為の健康管理も大切な仕事だ。イルカは尾びれから採血したり、お尻の穴で体温を測定するので、スムーズに採取できるようトレーニングも行う。

大塚さんは獣医師の他にも飼育業務、イルカのトレーナー、「いるかの時間」のナビゲーターなどマルチタスクをこなす。

「一生懸命生きている彼らをもっと多くの人に知ってもらいたい。生きものと人をつなぐ存在でいたいです」